私の正義

山王中学校　永澤　花

「正義とは信じがたい。正義はいとも簡単に逆転する。」これはアンパンマンの作者であるやなせたかしさんが残した言葉だ。戦争という時には、どの国も自国でこそ正義であり相手国が悪いとしか思わない。その振りかざした正義こそ不安定なもの、あやしいものではないか、というやなせさんからの問いかけである。そんなやなせさんは「本当の正義とは、おなかの空いている人に自分の食べものを分けてあげることだ。」と自分の正義について述べている。アメリカの正義、ロシアの正義、中国の正義、隣の席のあの子の正義。正義は人の数だけある。

今年で終戦５０年を迎えるベトナム戦争。きっかけは正義同士の戦いだった。第二次世界大戦が終わり宗主国であったフランスがベトナムに攻めこんだことで、戦いの火蓋が切られた。フランスが負けると資本主義であるアメリカが自分に都合が良い政府を南ベトナムを中心に作り支援した。一方で北ベトナムは社会主義だったため対立。本格的な戦争へと発展していった。二十年続いた戦争は多くの悲劇を生みだした。「戦争は人間を変えてしまう」と戦場を取材した報道写真家の石川文洋さんは語る。石川さんが撮ったアメリカの攻撃から逃げ遅れた母親を泣き崩れながら見ている子供達の写真は、戦争の残酷さを物語っていた。石川さんは「ふだん米国人は陽気です。おそらくいい人なんだと思います。でも戦争は敵と味方に分かれて戦います。自分が殺さなければ殺されてしまう。そうなると、人間が変わってしまうんです。」と取材に応じていた。石川さんは戦争のありのままを写した写真を通して、戦争とはどうゆうことかを訴え続けている。これが石川文洋さんの正義だ。

海外ではエレベーターに乗り合わせた時、「ハロー」とあいさつを交わす。「私は敵ではない。」というメッセージを伝えるためである。もしエレベーターに全身真っ黒の男性が無言で乗り込んできたらどう感じるだろうか。すくなくとも私は怖いと感じ

てしまうだろう。しかしその男性があいさつをして乗り込んできた場合きっと私はほっとすると思う。あいさつは相手に安心感をあたえる。では他にあいさつはどんな効果をもたらすのか家族に尋ねてみると「心の距離を縮めるため」「仲良くなるため」など前向な回答をしてくれた。あいさつは「自分の心を開き、相手を認め、相手の心に近づくこと。」と定義されている。私はあいさつをする時に、しっかり相手の目を見てあいさつする。そうすることで相手は私に少しでも心を許してくれると思うからだ。ある日、母が学校を訪れると見知らぬ生徒に「こんにちは。」と声をかけられた。そのとき母はきっと良い子だ感じたらしい。あいさつは先入観を捨てて、相手を見ることができる。

非常に小さな出来事が、最終的に予想もしていなかった大きな出来事に繋がることをバタフライ効果という。１９７９年にノーベル平和賞を受賞したマザーテレサは世界平和のためになにをしますかと尋ねられた時こう答えた。「家に帰って、家族を愛しなさい。」どんなに小さな行動もみんなが行えば、世界平和は訪れるかもしれない。人を愛すことがマザーテレサの正義だった。私の正義はなんだろうか。まずはあいさつを続けていくことから始めよう。「こんにちは。」この一言が世界平和に繋がることを信じて。